



東京都家庭菜工業協同組合会報

かていいやく

平成8年1月 通巻58号



かていやく

本組合は、組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な共同事業を行い、よって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつ、その経済的地位の向上をはかることを目的とする。

定款 第1章 第1条(目的)より

目 次

通巻58号 1996年1月20日

年頭のご挨拶	塩澤 譲	3
新年のご挨拶	斎藤好平	4
新春特別企画・座談会		5
新川から銀座へ移った頃 津村重舎、歌橋一典、友田真二		
新春特集		11
不老長寿薬の話・二題 弓とともに歩んで	伊藤和洋 友田真二	
伝統薬物語／養命酒		14
会報に寄せて		16
笑いは平和と健康の源泉	松井壽一	
委員会だより		18
薬事、GMP、流通、広告、労務、 厚生、広報		
会員会社訪問		
株式会社浅田飴		19
無臭元工業株式会社		20
森田製薬株式会社		21
株式会社守田治兵衛商店		22
やっぱり家庭薬		24
慈雲堂薬局 佐藤 弘		
家庭薬軟式野球大会		25
栄冠は昨年に続き(懶大木に		
家庭薬グラフティー		26
編集後記		
事務局だより		28
表紙題字・最高顧問 津村重舎 表紙 絵・相談役 堀 泰助		

年頭のご挨拶

メーカーの誇りが生きる市場に



理事長 塩澤 譲

明けましておめでとうございます。組合員の皆様には良き新年を迎えられましたことと心からお喜び申し上げます。

昨年中は当組合の運営につきまして、格別のご協力をいただき、お陰さまにて事業が順調に推移しましたことを厚くお礼申し上げますとともに、本年も何とぞご高配を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみると、年明け早々の阪神大震災、地下鉄サリン事件をはじめとする一連の忌まわしい事件、金融機関における不良債権問題や不祥事の表面化など、世間を揺るがす出来事が数多くありました。

しかも昨年は太平洋戦争終戦から50年目の年でした。その節目の年に、人びとが50年をかけて營々と築いてきたものが瞬時に崩れるとともに、「自由と繁栄」の陰に隠れていた歪みが一気に噴出したような虚しい一年でありました。今年はもう、あのようなことが起らぬないようにと祈るばかりです。

ところで今、周囲のあらゆるところで「価格破壊」という現象が起きています。経済企画庁は先の「平成7年度国民生活白書」の中で、これを構造的変化と分析していますが、心配なのは、こうした現象や変化の中で、メーカー側の力が相対的に低下し、その存在が次第に小さくなっていることです。

昔から、モノを造る人、つまりメーカーには、良いものを造り提供しようという「心」がありました。それがメーカーの誇りであ

り、信用であり、いわゆる「生・配・販」の中における力でもありました。

ところが、価格競争主導の市場=価格破壊によって、永年にわたって築かれてきた生・配・販のシステムとそのバランスが崩れるとともに、メーカーの原点であるこの「心」も脅かされようとしています。

「価格破壊」とは、メーカーにとっては心を込めて造った製品の「価値が破壊」されることともいわれます。価格には常にそのものの価値と信頼性が相関的に存在しております。その価値と信頼性がメーカーの手を離れたところで減殺されたとしたら、メーカーとして大悲しいことと言わねばなりません。

時代の変化とはいえ、われわれメーカー側にいる者としては、何とかしてこのようなことがないようにしたいものであります。

さて、業界内には、昨年施行されたPL法への引き続きの対応や本年4月より実施されるGMPバリデーション基準への対応、再販指定品目廃止の早期化や流通の規制緩和の問題など様々な問題が山積しております。

当組合の運営につきましても、こうした問題や時代の変化を念頭におき、行政ご当局のご指導と組合員各位のご理解、ご協力をいただきながら、事業を進めてまいりたいと存じております。

どうぞ、一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

(養命酒製造株式会社社長)

新年のご挨拶

新年を迎えて

東京都衛生局業務部長
齊藤 好平



新年明けましておめでとうございます。

東京都家庭薬工業協同組合の皆様におかれましては、清々しい新年を迎えたこととお慶び申し上げます。

日頃、東京都の薬務行政には種々ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

東京都では、2015年には、4人に1人が高齢者となる「超高齢社会」を迎えるといわれており、近年、都民の健康に対する関心は著しく高まっており、より高度で多様な保健医療サービスが求められております。

特に、在宅医療、地域保健医療に係る期待はますます大きなものとなっております。

こうした中、東京都におきましては昨年11月、東京都総合3か年計画「とうきょうプラン'95—生活都市東京をめざして—」を発表いたしました。

この「とうきょうプラン'95」は、『生活者の視点の重視』を基本理念に、『生活都市東京の創造』と『都民に身近でわかりやすい都政の実現』を基本目標として、これからの方策の方向と当面3か年に取り組む具体的な施策を明らかにしたものでございます。

なかでも、高齢社会への備え、震災対策の推進という緊急的な課題に対しては、総力をあげて取り組んでいくこととしております。

同計画では、都民が安心して暮らすことが

できる「生活都市東京」の創造をめざして、3つの施策方針と10の施策課題を掲げておりますが、とりわけ、高齢社会における心身の健康と自立への支援を重要な政策課題のひとつとして位置づけ、保健・医療・福祉にかかるサービスを一体的に提供する地域ケア体制等の整備を図っていくこととしております。

また、「より多くの人が、より高い生活の質をもって、より長く生きられること」を目指し、都民の健康づくりを積極的に支援するとともに、地域住民に最も身近な市町村が保健・福祉サービスを一元的に提供する新たな地域保健体制を推進するための施策の充実に努めているところでございます。

貴業界におかれましては、近年の規制緩和等社会経済情勢の大きな変化の中で、今後の課題等も多いことと存じますが、どうか、地域保健医療の向上のため、引き続き、ご尽力賜りますようお願い申し上げます。

21世紀の幕開けまで、余すところ5年となり、本格的な高齢社会に向けて、都民の生命と健康を守るという私どもの使命はますます重要なものとなってまいります。

この使命を果たすため、微力ではございますが、精一杯努力してまいる所存でございます。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

新春特別企画

新川から銀座へ移った頃

東京都家庭薬工業協同組合 最高顧問 津村重舎
東京都家庭薬工業協同組合 元理事 歌橋一典
東京都家庭薬工業協同組合 広報委員長 友田真二

組合の事務所が中央区新川から現在の銀座の新事務所に移転開設したのが、昭和42年1月30日でした。

当時の理事長は4代目の理事長として就任されて間もない津村重舎氏で、組合運営を強力に推進するため、委員会を新編成し、新川にあった組合建物も老朽化のうえ、立地条件もあまり良くなかったところから、これを売却し、新事務所の取得、移転に大変なご努力をされました。

この当時の役員の方々もほとんどの方が後継者と交替されたり、亡くなられたりして、当時のご苦労を知る方が少なくなりました。そこで、この時代を知る当時の津村重舎理事長（最高顧問、現ツムラ取締役相談役）と歌橋一典理事（当時の労務委員長・ニチバン社長）、友田真二理事（当時の弘報委員・友田製薬取締役、現広報委員長）にお集まりいただき、新事務所移転時の組合の委員会活動を中心に座談会を開催しました。（編集室）

■ 津村重舎氏 4代目理事長に就任 委員会組織を大幅に改革

友田 津村さんが理事長に就任されたのは何時でしたか。

津村 私が理事長になったのは昭和40年5月で、それから61年5月に太田さん（現太田胃散社長）に代わるまで21年間勤めました。

友田 初代の理事長は玉置薬業の玉置弘三さんで、次が12年間理事長をされたイチジクの湯浅巖さん、3代目が三宝製薬の渡邊久吉さんで、津村理事長は4代目になるわけですね。

津村 そうです。

友田 ちょうど津村さんが理事長に就任され

た昭和40年5月の総会で私も父（鈴三郎）と交替して理事になりました。この時は確か5～6名の理事が若い方に代わられ、歌橋さんも憲一さんと交替されて理事に就任されたと記憶しております。

歌橋 そうです。その時、津村さんは組合運営を強力に推進するため、委員会の組織を大幅に改革されましたね。

津村 湯浅理事長時代（昭和25年5月～37年5月）には、企画、経済、渉外、価格研究、財務の委員会があり、さらに渡邊理事長時代（昭和37年5月～昭和40年5月）に新たに販売対策、広告、薬事研究の委員会が加わりましたが、私が理事長に就任して理事の皆さんと協議の上、これを総務、財務、薬事、販売



▲銀座へ移った頃を語り合う（株ツムラで）

対策、広告、厚生、弘報、労務の8委員会に新しく編成し直し、これが現在の委員会の基礎となっています。

■ 会報『かていやく』の発行 初代編集長は堀内伊太郎副理事長

友田 私は弘報委員会（現在の広報委員会）の委員を担当させられ、現在まで引き続いているわけです。初代の委員長には現在の浅田飴の堀内恵美子社長のご夫君である堀内伊太郎副理事長（故人）、副委員長には湯浅巖さんのご子息である湯浅富夫さんが就任され、社業を割いてご熱心に会報の編集発行にご努力されたお姿が目に浮かびます。

組合の広報誌である会報『かていやく』の発行のきっかけは、従来、ややもすると、組合は理事など役員だけのものという感じになりやすいので、組合員への情報提供の場として津村理事長が発案されたものです。その第1号は昭和40年12月10日に発行しました。

■ 労務関係の資料交換は？の質問で委員長に

歌橋 私は業界の何の会合であったか忘れましたが、津村さんに「家庭薬業界では労務関係の資料交換はやっているんですか」とお尋ねしたところ、「いやあ、やっていませんよ」というご返事で、このことが労務委員会の委員長を仰せつかる羽目になったようですね。もちろん私自身労務問題について専門的に研究したわけではないですし、単純に「業界の情報交換は必要だ」くらいに考えていたから、えらいことをお引受したものだと、つくづく考えた次第です。

しかし、副委員長を龍角散社長の藤井康夫さん（現会長）が引き受けられたので、他の委員の方の協力も得て、なんとか職責を果すことができました。委員会の活動といつても事務局には基礎資料となるものは全くなかったので、手始めに基礎資料の整備と定期的



▲津村重倉最高顧問

資料の交換、労務担当者の意見交換の結果に基づく情報の収集・資料化を実施しようということで、会員各社のご協力を得て、労務に関する実態調査などを行いました。

また、東京商工会議所の労働委員会の方を招いて「経営労務に関する今後の在り方」についての講演会も開催しました。その後、委員会運営の具体的方策として、どのようにして各社のコミュニケーションを図るべきかを検討した結果、直接経営労務を担当している方々にお集まりいただき、担当者が当面苦慮されている事柄について、生の情報や意見を交換することが良いのではないかということになり、労務連絡会を発足させ、最初は毎月1回定期的（第3土曜日）に開催しました。出席会社は12～3社でした。この労務連絡会の流れが現在の労務委員会の仕事として続いているようですね。

友田 『かていやく』の発行は最初は年3回発行しましたが、昭和50年から年2回発行に変わり、さらに、昭和58年には1回発行となり、諸般の事情により昭和59年4月の第47号をもって一時休刊のやむなきに至りました。

津村 そうでしたね。組合誌となると、なかなか思うように原稿が集まらず、皆さんご苦

労されましたね。編集者の方々は縁の下の力持続的な存在で、感謝しております。

友田 その後、理事長（6代目）が救心の堀泰助さん（現会長）に変わられた時に『かていやく』の復刊が提案され、私が委員長として平成2年12月に復刊第1号（通巻48号）を刊行し、平成4年からは年2回発行として現在に至っています。

■ 組合事務所の移転 日清商事と再三再四折衝

友田 ところで、現在の組合事務所はいつ変わったのでしょうか。

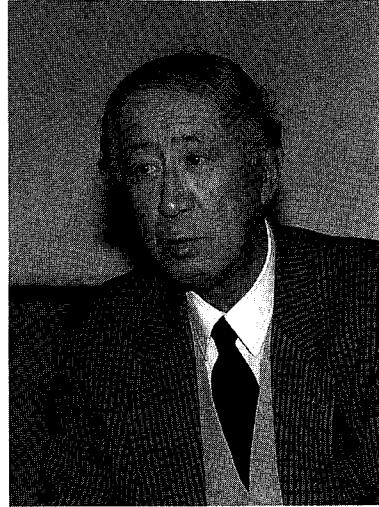
津村 私が理事長になった時に以前の事務所（中央区新川1-8）が立地条件も悪く、しかも老朽化したために、これを売却して移転することを理事会に諮り、承認されました。これに関する調査、交渉を正副理事長と総務委員会の正副委員長に一任され、特に当時の総務委員長であった坂本藤四郎さん（理事、婦人薬「美宝散」本舗東京不二製薬社長）や副委員長の堀泰助理事（当時は救心製薬専務）が中心となって、まず第一に新川の売却について、日清商事と再三にわたり折衝しましたが、なかなか価格の点で折り合いがつかず、全国の各銀行にも売却のための照会を行ったりしましたが、立地条件その他でまとまりませんでした。

そこで、建物売却の方針を変更し、事務所付きアパートを新設する方針に切替え、理事会の承認を得て、再度、総務、財務委員会が中心となり不燃住宅公社に再建の計画設計書の作成を依頼しました。その建築規模は、地下1階、地上5階、建築費は概算5,616万円でした。

その資金調達には約半額を不燃住宅公社の融資と、残額は商工中金からの融資または組合債により調達することに決定したところ、日清商事から譲渡の要望が再び起こり、再



▲歌橋一典元理事



▲友田真二広報委員長

度、交渉の結果、坪当たり50万円で売買が成立しました。

一方、立地条件の良い移転先を探したところ、ちょうど銀座に日動画廊所有の建物の引き合いがあり、早速、理事会に諮り、購入の折衝に入りました。譲渡価格は最初3,500万円でしたが、予算のこともあり、私と委員長の坂本さんと日動画廊の社長と値引き交渉を行った結果、私どもの実情と熱意に動かされて、組合から提案した3,250万円で契約することができました。

その後、事務所内外の補修、冷暖房装置などの改修工事を行って、昭和42年1月30日に移転を完了しました。

友田 大変なご苦労があったんですね。因みに新事務所(現在の事務所)は次の通りです。場所は中央区銀座東8丁目15番地(現在の表示は銀座8丁目18番16号)で、土地は29.73坪。建物は鉄筋コンクリート造5階建、延113.09坪です。

津村 この時の財務委員長は確か副理事長の藤井勝之助さん(龍角散副会長、後に二代目得三郎を襲名)でしたね。

友田 そうでした。副委員長には若手理事の中村源三さん(中村化成産業現会長)で、総

務委員会と一緒にになって旧事務所の売却や新事務所の購入に対する財務問題について大変なご努力をされました。

それから、田中敏明理事(東京甲子社元社長、故人)にも色々とお世話になりました。

■相互の理解を深める目的で 厚生委員会を新設

津村 厚生委員会の山崎さん(金冠堂先代社長山崎栄二氏、故人)には大変お世話になりましたね。

友田 厚生委員会は津村さんが理事長になられた時に、役員でない組合の方々にはなかなかお目にかかる機会がなく、相互の理解を深める目的で新設され、初代の委員長には山崎栄二さんが就任されて非常にご熱心にお世話をいただき、私も組合員の一人として感謝しております。

この委員会の初仕事は、現在も引き続いで行われているTKGC(東京家庭薬ゴルフクラブ)が作られたことです。記録によりますと、津村理事長さんはじめ、救心製薬の堀専務さん(現会長)、太田胃散の太田副社長さん(現社長)がこの発足にご熱心にご援助されたよ

うでした。

歌橋 私もこのTKGCに参加した経験があり、優勝させていただいたこともあります。上位入賞は理事長の津村さん、太田昭さん、救心の堀正巳さん（現社長）達が常連でしたね。

友田 設立当時の厚生委員会の副委員長には町田製薬の町田弘専務さん（後の社長、故人）がなられ、山崎さんと一緒に組合懇親旅行会には一生懸命お世話をいただきました。この頃は春秋2回の懇親会が開催され、昭和43年からの懇親旅行会には、山崎委員長のご好意で、民謡の権威である佐藤松子、松枝のご両人を招かれ、本格的な民謡を堪能したことでも懐かしい思い出です。現在の委員長である石原道郎さん（石原薬品現社長）も、この時から厚生委員になられていきましたね。

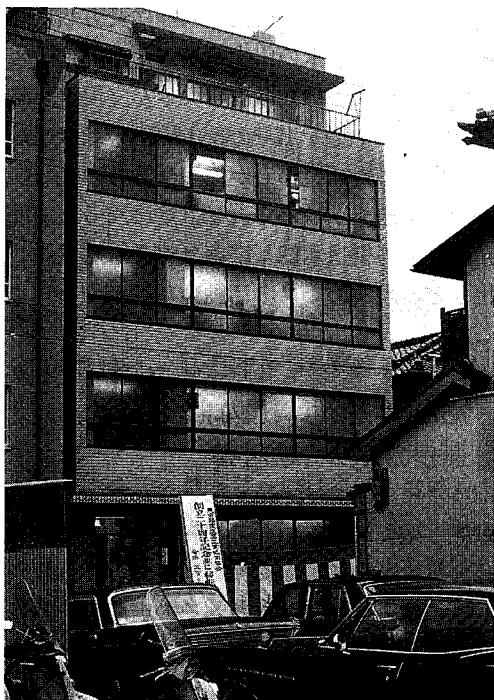
それからTKGCの他に東京家庭薬碁会も作られ、私の父（段位4段）もこれに参加しておりましたが、同好者の会として年3回開催され、暫くの間続けられていました。金冠堂の市川さん（現専務）もTKGCは勿論のこと、碁会の方にも有段者として、三宝製薬の渡邊吉康さん（3代目理事長のご子息、現社長）達と出ておられましたね。

また、山崎委員長の発案で、毎月、理事会終了後に同好者が集まり、佐藤先生のご指導による民謡研究会を開き、民謡の稽古に励みこの成果を組合懇親会の席上でご披露されたものでした。

津村 懐かしい話ですね。とにかく山崎さんはじめ、厚生委員会の皆さんにはお世話になり、いつも楽しく過ごさせていただきました。

■ 専門実務者も加わり、現在の委員会活動の基礎が作られる

友田 広告委員会では鈴木日本堂（現トクホン）の中尾義隆専務（故人）が委員長で、副委員長には太田昭さんがなられましたが、間



▲移転した頃の家庭薬ビル（昭和42年1月）

もなく委員長は太田さんに交替され、広告表現の諸問題の協議をはじめ、組合員の広告技術向上に資する目的で、都庁広告監視担当官による講演会や委員との懇談会の開催や、さらに昭和44年からは広告統計資料を作成して全組合員に配布し、この資料作成は現在も委員会の作業として続けられています。

その他、販売対策委員会（現在の流通委員会）には、津村順天堂（現ツムラ）の津村重孝専務（故人）、また、薬事委員会には和光堂の弘田良雄専務が委員長になられ、この当時、業界最大の課題となっていた不当な乱売やおとり販売の防止策として、独禁法に基づく特殊指定の検討が日薬連を中心に進められ、組合にあっても両委員会が家庭薬メーカーの立場からどのようにしたらよいか、再三にわたり検討されました。

その後、間もなく、薬事委員会の委員長に龍角散の藤井康男さん（社長、現会長）、副委員長に宇津救命丸の宇津廣さん（先代社長、

故人)が就任され、委員も大幅に変更し、厚生省出身の金冠堂の山中幸利さん、堀内伊太郎商店(現浅田飴)の唐崎実さん(現全家協専務理事)や都庁出身の秋山錠剤の花沢四郎さんなどの専門実務者が加わり、この時代から業界に意見が求められるようになった一般用医薬品の製造承認基準案に対する意見の提出など、現在の委員会活動の基礎が作られました。

■ 組合事務所は貴重な財産 最良の方法の検討を

歌橋 販売対策委員会の津村重孝委員長さんは非常に精力的に家庭薬の乱売やおとり販売対策に活躍されましたね。その当時ご一緒に活躍されていた方には金冠堂の市川さん、鈴木日本堂の中尾さん、養命酒の本田朗さん、東京甲子社の宮川修市さん(現会長)、宇津救命丸の齊藤平四郎さん、龍角散の東藤政五郎さん、救心の関毅さんなど、今ではほとんど

の方が退任されていますが、皆さんいざれも第一線で大いに活躍されていたことが懐かしく思い出されます。

津村 本当に理事さんはじめ各委員会の皆様にも大変お世話になり感謝しております。私が長く理事長の職を続けられたのも、このような方々のご協力があったからできたものと思っております。

友田 新事務所に移転してから約30年が過ぎ、現在の建物も老朽化し、エレベーターをはじめ、随所に破損や腐食がみられ、根本的な対応が迫られてきています。現在、組合の最高顧問として、また、現在の事務所に移転した際にご苦労された理事長さんの立場で、今の組合の理事の皆さんに津村さんから一言お願いいたします。

津村 今の組合事務所は先代の方々が残された貴重な財産で、この財産を無くすことがないように、どうぞ、若い理事さん方で是非将来を見据えて最良の方法を研究してください。

友田 本日は長時間ありがとうございました。



▲玉串奉奠をされる津村重舎理事長(当時)

新春特集

不老長寿薬の話・二題



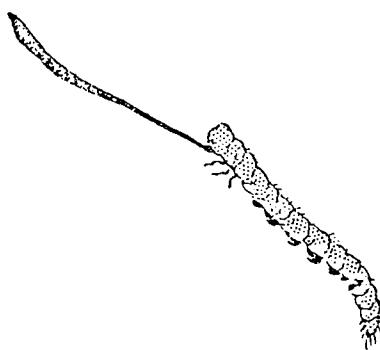
伊藤和洋

冬虫夏草

●肺を補し、腎を益す

冬虫夏草は中国の雲南、四川の各省に産することは有名だが、ネパールヒマラヤの東部にも自生している。

このキノコはコウモリ蛾の幼虫の頭部に麥角菌科のコルディセプス菌が寄生し、雨期にクロモジの楊枝大の棍棒状キノコ（子実体）となって地上に現れる。そこで、このキノコ部と幼虫体（いもむし状）部をくついたまま掘り取って乾燥する。これが冬虫夏草の生薬である。最近の研究によると核酸（抗ガン作用）、セレン（免疫力を高める）、アルギン質（血圧降下作用）などが知られるようになった。昔から強壮薬とし、「肺を補し、腎を益す」とされ、肺結核やその嗽を医やすのに用いられ、酒に浸して飲めば延年長寿をもたらすといわれている。また鴨の腹腔内に詰め、煮て食べれば精力を益すといわれる。



●シェルパも強壮薬として用いる

筆者はネパールに滞在中（昭和38～40年）、東部ヒマラヤのアマダブラン峰の近くにあるクムジュン村の山麓に自生する冬虫夏草を取り寄せ、牛乳と蜂蜜で一緒に煮沸して飲んで体力を養ったことを思い出す。

現地のシェルパ達はこのキノコをヤツツ・グンブゥーと言っていた。ヤツは雨期、ツアは草、グンは冬、ブーは虫のチベット意である。現地人もやはり滋養強壮薬として用いていた。

非時香菓（橘）

●常世国の不老長寿の実

トキワカガコノミ
非時香菓（橘）を田道間守が、わが国に将来したという伝説は、日本書紀、古事記、播磨風土記、万葉集などに明記されている。田道間守の先祖は新羅王（天日槍）であり、帰化人となっているのである。

垂仁天皇の90年（西暦61年）、帝が田道間守（名は帰化地の但馬国、今の兵庫県に由来）トコヨ
を常世国に非時香菓（不老長寿の実）という説がある）を求めるように派遣した。

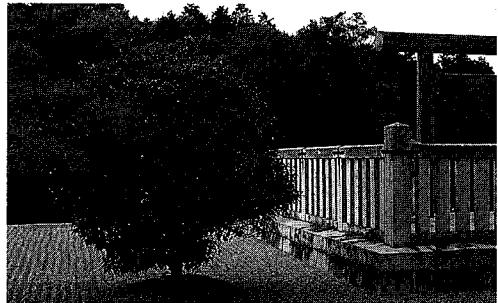
新井白石の「東雅」には常世国は新羅國、今朝鮮（韓国）の濟州島だと記している。つまり、この地は田道間守の祖先の國だから遣わされたのだろう。それから10年後、非時香菓8本を持って帰国した。4本を皇太后（比婆須比賣）に献上し、4本を垂仁帝の陵に供え、香菓の果実を捧げて慄哭して其處で果てたという。

本居宣長の古事記伝によると、その後、この種子を蒔いて発芽させ、初めて花が咲いた時、田道間守の忠誠に感動していた人々は、多遅麻花と名付けたといわれる。この樹の品種は右近の橘と同種の日本原産のヤマトタチバナと近縁の、実が甘い品種だといわれる。

筆者はこの甘味のある橘（コミカン説による）の種子から成木に育てたり、その近縁種を収集して、12種ほどを現在も栽培しているが、同定はなかなか難しい。ところで、最近の研究によると、ビタミンCには脳細胞の活性を促進したり、抗ガン作用があることが解明している。

●垂仁帝は140歳、150歳？

さて、近鉄線尼ヶ辻駅近くに垂仁天皇の御陵があり、現在、門内左側に柑橘樹が栽植さ



れているが、正確な品種名は調査中である。陵を取り巻く周濠の中に小島があり、此処に田道間守の墓と伝えられる陪塚がある。

なお、垂仁帝の寿命は「紀」には、百四十歳、「記」には百五十歳と明記されている。とにかく、長寿者である。それなのに常世国に不老長寿の薬を求めさせたというのは、より長寿を願ったからであろう。

（日本東洋医学会会員）

弓とともに歩んで

友田真二

■弓の歴史

陽が昇るとともに男は獲物を求めて狩りに行く。古代より人類は生きるために狩猟を行い、道具として弓を考案しました。南洋諸島、アフリカ、エジプト、欧州、中国、世界各地それぞれの国に固有の弓があり、歴史を飾っています。日本でも神武天皇像は弓に金鶴が絵にかかれており、各地の有名神社には弓道場があり、弓を修業する神官も多く、魔を払う弓の神事も行われています。

鉄砲の伝来とともに、武器としての役割は一步後退しましたが、NHKの番組八代将軍吉宗でも放映されたように、大名や高級武士は、武士のたしなみとして弓の修業をしております。

相手が不動の的であり、ハズレるのは技の未熟か、心のスキかであり、自分の力に合わせて一人でも、多人数でも、場所さえあれば修業できる。心技体の練成のスポーツであり、戦前は現在のパチンコ店のように盛り場や温泉場には矢場（射的屋）があり、庶民にも親しまっていました。物を投げる、的に当てる、穴をあけるのは人間の持つ本能に快感を与えるものがあると思われます。

■私と弓

弓との付き合いは小学生の10歳当時からで、過保護で虚弱児童であった私は、庭で半弓を引いて遊んでいました。

中学時代は剣道部で3年の時にただ一人初段に合格、急激に身長が伸びてクラスでトッ

ブの背高さんになり、胸囲を広げるためにと、親父の会社の工場長が練士5段で、弓道場がありましたので、ちょっと真剣に弓の修業をいたしました。

兄が一橋大学山岳部で遭難死したショックと、軍事訓練の実弾射撃に38点の最高得点を得て、配属将校より狙撃兵適の証書を貰ったことが重なり、親父は絶対兵隊で死んではならないと、徴兵猶予の恩典のあった理科系への進学を強制され、当時、最も食糧事情の良い青森県の弘前高校理科（現弘前大学）に入学し、そこの弓道部に入部いたしました。東北の弓は阿波範士の流れを受けた強弓をガッチリ引く氣力と根性の弓です。戦争末期から戦後の弘高時代は、日立製作所への勤労動員、敗戦後の混乱等で弓の修業も中途半端なものがありました。

昭和22年、思うところあって早稲田大学政経学部経済科に進学し、スポーツ王国ワセダの常勝弓道部稻弓会に入会しました。敗戦のため、GHQ命令で学生弓道禁止の圧力がありました。日本の伝統の弓道を守る各宗家のご熱意と先輩諸氏の情熱にGHQ本部儀典長シュミッツ代将（洋弓アーチェリーの州チャンピオン）との出会いに恵まれ、各大学とも連絡を取りつつ、同志を集め、半年足らずで部を再建しました。1年でマネージャー、2年で副将、3年で主将を勤め、その間、宗家にツルを探って戴いての直接指導（これは今でも弓の仲間より羨ましがられている）先

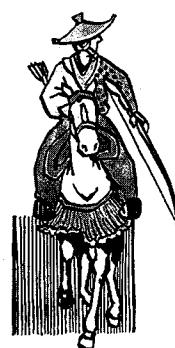
輩諸氏のご指導と部員の練習、また部費調達のためのダンスパーティー（パーティー屋のハシリ）、各大学、GHQとの交流試合等、正に充実した3年間を過ごし、卒業の年には7大学リーグ戦制覇、個人戦優勝の華を飾ることができました。

■実業団弓道へ

卒業後はスポーツとしての弓の普及に徹し、学生連盟と実業団連盟一筋に歩み、稻門体育会代表委員会常任委員、全日本実業団弓道連盟常任理事として活動してまいりました。平成7年10月23日、伊勢大神宮弓道場で開催の第43回全日本実業団弓道連盟全国大会で競技委員長を勤めましたが、総会の結果、計らずも連盟会長を拝命することになり、身の引き締まる思いを噛みしめている昨今であります。

弓には武射としての日置流、礼法と騎射の小笠原流、体育より発した本多流の三大流派があり、日本弓道連盟に統括されております。実業団連盟は会社の福利厚生の一環としての弓道部を母体として、スポーツとしての弓、楽しさの弓の中に厳しさを持ち、ストレスを解消しつつ、明日の活力を養って社業に貢献する趣旨に集まった団体で、私もこの理想を生かすためにも余生を全力投球する覚悟で、今後も弓を楽しみながら、一生修業と思って精進するつもりでおります。

（三共エール薬品株式会社 顧問）



世の人々の健康長寿に尽くしたい、と願い創製

■創始の精神を守り400年

養命酒は、今から約400年前の慶長7年(西暦1602年)、信州伊那の谷・大草、現在の長野県上伊那郡中川村大草の塩沢家当主、塩沢宗閑翁が「世の人々の健康長寿に尽くしたい」と願い創製したものです。

以来、養命酒は、この創製の精神を受け継ぎ、伝統の製法にもとづいて造り続けられ、今日に至っております。

そして、この間、養命酒はいつの時代においても、多くの方々のご信頼を得てまいりました。

■慶長のある大雪の晩に

伝説によると、慶長年間のある大雪の晩、宗閑翁は雪の中に倒れている旅の老人を助け、手厚く介抱しました。

その後三年間、老人は心のおもむくままに塩沢家の食客となっていましたが「海山の厚き御恩に報いたく思えど、さすらいの身の悲しさ。されど自分はいわれある者にて、薬酒の製法を心得ている。これを伝授せん。幸いこの地は天産の原料も多く、気候風土も適しているから……」と、恩返しに薬酒の秘製法を伝授し、この地を去りました。

■薬酒を養命酒と命名

これより宗閑翁は「世の人々の健康長寿に尽くしたい」との念願から、手飼いの牛に跨がって赤石山麓の奥深く分け入り、薬草を採取して薬酒を造り始め、慶長7年、これを養命酒と名付けました。

■一筒の養命酒を求める10里の山越え

当時、養命酒は酒庫の土中にもとがめを埋めてその中に造り込み、年を経て自然に熟成



▲第一工場内に建立されている「養命酒発祥の地」の記念碑

したものから順に、病気の人や貧しい村人に施していました。

やがて、その評判が伊那の谷の外にも広まり、5里も10里も山越えをして養命酒を求めに来る人が絶えなくなっていました。

そのため塩沢家では裏山の竹を切って竹筒を作り、これに注いで分け与えるようになりました。

また、「養命酒を飲むと瀕死の病人も一度は甦る」といううわさから、近郷に重病人が出ると「この病人はもう助からないかも知れないが、せめて養命酒だけは飲ませてあげたい」というほど、ありがたがられたともいいます。

■製法は一子相伝の秘法

塩沢家に残る古文書によると、文化10年、当時の尾州藩主が養命酒の製法について尋ねたという史実があります。

その古文書をみると、養命酒は完成するまでに、2,300日も要すること、またその製法は塩沢家一子相伝の秘法であったことなどが記されています(このように完成まで2000日余りを要していた養命酒の製法も現在では製造技術や品質管理技術の進歩により、約2ヵ月で可能となっています)。

■江戸中期の小説・長唄に登場

安永3年（西暦1774年）に刊行された小説“異国奇談和荘兵衛”の中には、長崎の唐物屋と荘兵衛が難船して漂流し異国巡りをしたとき、金銀宝玉国（漢土を去る180万里にある財宝豊かな国）の大王が「養命酒の廻りが来て御悦喜残からず候……」と記されています。

また、天明5年（西暦1785年）に作られた長唄“春昔由縁英（はるはむかしゆかりのはなぶさ）”の一節に「末は諸白諸共に千年不老養命酒……」とうたい込まれており、その頃、養命酒の名が江戸でも知られていたことがわかります。

■養命酒の効用を一人でも多くの方々へ

やがて、大正に入り、交通機関や情報伝達機関が著しく発達し、それにつれて人々の交流も盛んになってきました。

このため養命酒も「発祥地伊那の谷ですでに300年も飲まれ続け、幾多の人々から喜ばれている養命酒の効用をより多くの方々に知つていただきたい」との念願から、大正12年（西暦1923年）6月、それまでの家業製造を会社組織に改め、東京を中心として全国的に養命酒の紹介を始めました。

▼塩沢家に残る、文化10年の古文書



以後、太平洋戦争時、一時的な混乱はありました。日本全国へ、さらには海外諸国へと地域を広げながら現在に至っています。

■養命酒の品質を高める優れた生産環境

養命酒の工場は、中央アルプス山麓の高原（長野県駒ヶ根市）にあります。

一帯は、海拔800メートル余り。高原地特有のきれいな空気、良質な水、さらに四季を彩るさわやかな気候風土等、豊かな自然に恵まれており、養命酒にとって好適な生産環境となっています。

しかも、ここは400年前、その自然の恵みを受けて、養命酒が生まれ育ってきた発祥地にほど近く、生まれながらの生産環境もあります。



創製当初から使われている養命酒の目印（現在の商標）である「飛龍」は、江戸幕府ができたとき徳川家康に献上し、その後幕府から“天下御免万病養命酒”と免許され、その象徴として使用することを許されたといわれています。



薬用養命酒

効能効果

胃腸虚弱、食欲不振、血色不良、冷え症、肉体疲労、虚弱体質、病中病後

成分（60ml中）

ケイヒ270mg、コウカ12mg、ジオウ60mg、シャクヤク60mg、チヨウジ24mg、ニンジン60mg
ボウフウ96mg、ウコン36mg、ヤクモソウ48mg
淫羊かく114mg、烏樟594mg、杜仲18mg、肉蓙蓉48mg、反鼻12mg

アルコール分14%

笑いは平和で健康な世界を作る源泉

医薬ジャーナリスト 松井壽一



事件と事実と真実と

事件と事実と真実は違う、と言われる。そんなことはない。起きた出来事は一つだと思われるだろうが、世の中はなかなかそう簡単には運ばないようなのである。芥川龍之介の小説に「藪の中」というのがある。黒沢明監督が映画化して「羅生門」と題がつけられたが、登場人物の言い分は三者三様で、どれが本当かわからない。

今日の出来事も、これだけ情報化が進んでいるにもかかわらず、わからないことが山程ある。歴史的事実にいたっては、新しい資料が見つかるたびに、あるいは遺跡が新しく発見されるたびに、それまで言われてきたことが実は間違いであった、とされることがままある。

私が「薬の文化誌」で書いたことに誤りがあり、「薬の社会誌」でそれを訂正した経緯については、本編でも紹介したが、なんとまた新しい事実が判明して、筆者としては当惑している昨今である。

「誤ちを正すにはばかれることなかれ」の言葉があり、私としてはむしろ正しい知識に触れられることを喜びとしたいわけだが、一方では徹底的に真実を追究できないもどかしさも覚えている。

しかし視点を変えれば、新しい発見が期待できる文献を見つけ出せばいいわけで、労をいとわなければ新たな喜びにつながることもあるわけである。

日本売薬の始祖が万代常閑であることは疑いの余地がない。備前国和氣郡益原村の「延壽返魂丹」の金看板は、藩主・池田公より下

されたもので、今日に現存している。この薬が越中富山へ伝わり「反魂丹」として日本国六十余洲にあまねく売り広められたことも確かなことである。

さあそこで、いつ誰がどのようにして伝えたら「返魂丹」が「反魂丹」として売られるようになったのか、これまで諸説あり、そのうちの二つを取り上げて書いたのだが、その信憑性を疑わざるを得ない状況となった。

富山藩士・日比野小兵衛が藩主の前田正甫公と第11代万代常閑の縁を結んだことになっていたのだが、万代家の年表を仔細に調べた結果、時代がかけはなれていることがわかった。そればかりではなく万代常閑が富山へ行ったという事実はないのではないか、という疑義まで出てきてしまったのである。こうなれば富山へ行って徹底的に調べねばならぬ、と心中ひそかに決意をかためているところである。

万代常閑記念館が開館

なぜこのように最近になっていくつかの疑問点が出てきたかというと、岡山県和氣郡和氣町益原666-1に、「万代常閑の里・万代常閑記念館」が創設されたからである。記念館をつくるからには正確を期さねばならぬ、とあって古文書をあらためて読み下し、次々に新しい発見があったというわけである。

学問を究めるということは、つくづく難しいものだと考える。しかし新たなる闘志も湧いてくるので、いずれその成果を本編でご紹介できたらと考えている。

記念館の開館記念式典は昨年11月1日に行われ、私も出席することができた。日本国で

は、この記念館にしかない展示物もある。たとえば窓篤児(ワートル)薬性論全21巻18冊、林洞海訳述、和蘭国、母口晋勤歌(ムウプラッヘ)校補である。とても内容が充実しているので、薬業にかかわりのある人にはぜひ訪れてほしい記念館である。宿泊施設も隣接しており、温泉も湧き出ている。かの有名な備前焼の窯元がたくさんあり、竹久夢二記念館も近い。日本でいちばん古い私立学校の「閑谷学校」もすぐ近くにある。

医薬と縁の深い岡山

それだけではない。泉洲堺の代官だった万代家の先祖が移り住んだこの地は、前から医薬と切っても切れない因縁の地だったのである。この地方の歴史をひととくと、奈良時代に日本へ数々の薬や医療の知識をもたらしてくれた鑑真和尚と密接なつながりがある、という点。

平安時代から江戸時代まで、日本の医療の中心となって活躍した和氣清麻呂とその子孫の存在。薬である茶を日本に伝え「喫茶養生記」を著わした栄西禅師は岡山市吉備津の出身である。江戸時代の後期に蘭学医として活躍した緒方洪庵(岡山市足守)、難波抱節(御津町)、箕作防甫(津山市)はいずれも岡山県の出身である。

緒方洪庵が開いた「適塾」には全国から俊秀が集まり、彼らがやり遂げた仕事は近代医学の大きな礎となっている。適塾の遺構は大阪・道修町と隣り合わせの北浜に史跡・重要文化財として現存している。

生き甲斐療法の実践で注目

現代に目を転じると、生き甲斐療法を実践

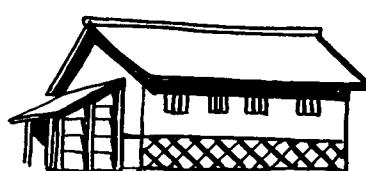
して一躍注目を集めた柴田病院は岡山県倉敷市にある。8年前、がん患者さんとモンブランへ登頂した医師、看護婦がいる病院で、狭心症、がんの患者さんに漫才、落語、喜劇を3時間見てもらい、前後の血液中における免疫能を測定、発表し、学会からも社会からも大きな関心を集めた病院である。

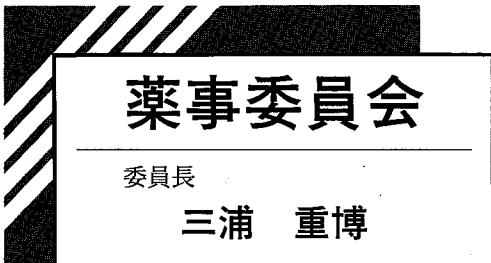
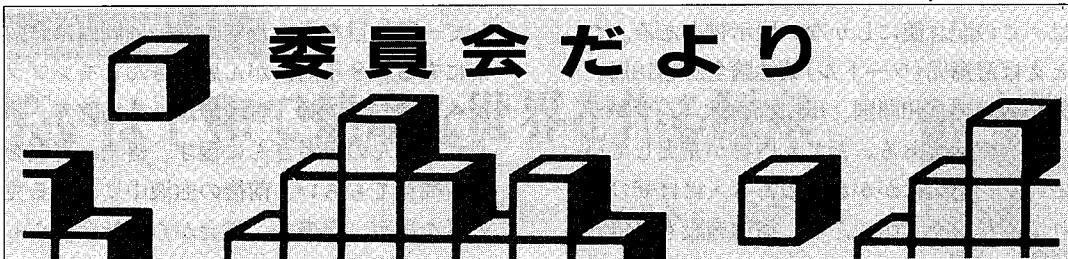
米国のジャーナリストであるノーマン・カズンズが笑うことによって硬直性脊椎炎を治し、心筋梗塞を克服したことは広く知られている。大きな声で笑えば自分も周囲も陽気になるし、腹式呼吸を自然にすることになるし、自らに備っている免疫機能を高める効果があることが判明している。

世の中を見渡すと笑えないことが多い。悩みや痛みを抱えていれば笑うどころではない、となるわけだが、そういう時こそ、そういう人こそ、大いに笑って心と体の不快感を吹き飛ばす必要がある。笑うことによって病んでいる心と体を癒すことができるなら、こんなすばらしいことはない。笑いが薬となるのだから、これが本当のしようやく(笑薬)というわけである。

8年8月8日を笑いの日に

平成8年8月8日をハッハッハッの笑いの日にしよう、という運動を展開している。薬業界からもこの運動に賛同して下さる方が増えているが、全国的な国民的な盛り上がりをみせるためには、まだまだ力が不足している。国民の祝日とならないまでも、笑いの大切さを意識し、笑いを忘れない人間となるために広く皆様方のご協力を仰ぎたい。笑いは平和で健康な世界をつくり出す源泉だと考える。





昨年11月22日に日薬連薬制委員会の全体会議が開催されました。その主な内容と最近の薬制に関する問題についてお知らせします。

1. 最近の監視指導行政について

日薬連の薬制委員会において松原監視指導課長から、最近新聞に異物混入などによる製品回収の記事が頻繁に掲載されるようになったことについて所見が述べられたが、このような公表は、昨年5月18日薬監第36号により監視指導課長から各都道府県に対し「許可権限が都道府県知事に委任された医薬品製造業者等から回収に着手する旨の報告を受けた場合は、原則としてその事実を公表するよう指導すること。」との「薬事監視指導要領」の改正通知によるもので、これには充分留意する必要があります。

2. 市販後調査の充実について

安全性確保の観点から市販後調査をより一層充実化させるため、当局では現在薬事法改正の準備を進めており、近く薬事審議会の了承を得た上で国会に上程される予定となっています。

3. 一般用医薬品製造承認基準に関する検討経過について

日薬連の薬制委員会にて「外用消炎鎮痛薬製造承認基準に関する調査結果(案)」が了承され、これに対する意見を本年1月12日までに日薬連に提出するよう、各加盟団体

を通じ関係会員に求め、さらにこれらの提出意見等について検討を行い、再度薬制委員会の了承を得て当局に提出する予定となっています。なお、当局では現在寄生性皮膚疾患用薬の製造承認基準について調査会を中心に検討が行われています。

4. 一般用医薬品添付文書作成の手引き(第1版)(案)について

従来から日本大衆薬工業協会において検討が行われていました「一般用医薬品添付文書作成の手引き(第1版)(案)」について、漸く昨年12月に作業が終り、日薬連を通じ各加盟団体に通知され、近く日薬連の自主申し合わせとして実施に移される予定となっています。

(株式会社ツムラ 薬制部長)



平成7年3月1日薬発第158号通知にて示されたバリデーション基準に対するQ&Aは同年11月7日薬監第86号にて通知されました。また、医薬品GMP担当技術者研修会において、各社のバリデーションも紹介され、いよいよ本年4月1日より施行となりました。

施行後の薬事監視における問題、要望等があれば日薬連を通じ、当局に要望していくたいと考えております。以下、最近のGMPの動向について報告いたします。

1. 第15回医薬品GMP研修会について

厚生省薬務局・日薬連共催による第15回医薬品GMP研修会が、「改正医薬品GMPの運用による品質保証の一層の充実」を主題として、11月1日東京、7日大阪、9日富山の3会場で開催され、それぞれ1239名、1294名、290名の参加者があった。

2. 第5回医薬品GMP担当技術者研修会について

厚生省薬務局・日薬連共催により、予測的バリデーション、変更時再バリデーション、製造を支援するシステム、洗浄等の作業に関する実施例、パネルディスカッション等の内容で、次の日程で開催される。

2月27日 東京・九段会館

2月29日 大阪・サンケイホール

3月5日 富山・タワー111

3月7日 福岡・明治生命ホール

3. GMP省令に対するQ&Aについて

平成6年1月27日厚生省令第3号（医薬品の製造管理及び品質管理規則）および第4号（薬局等構造設備規則）に対するQ&Aについては、日薬連と当局との間で調整作業が進められていたが、原薬工業界の意見も入れた

うえでまとめられることとなった。また、医薬品GMP事例集1988年版の内容も取り込み、再編集される予定である。

4. 生物学的製剤GMPについて

昨年3月20日に第1回生物学的製剤GMP作成検討会が開催され、6月以降、月1回の頻度で検討されている。本年1月の検討会でまとめ、案を提示して業界の意見を求める予定となっている。

5. 治験薬GMPについて

昨年6回の治験薬GMP作成検討会が開催され、本年度中に案としてまとめる予定で検討されている。

（株式会社ツムラ 品質管理部長）

流通委員会

委員長

鈴木 國之

昨年は1月17日の阪神大震災やオウム真理

会員会社訪問



株式会社浅田飴

東京都千代田区鍛冶町2-6-1

沿革

明治20年(1887)、堀内伊三郎氏が東京・神田区富山町で「御薬さらし水飴」を創製販売。22年、初代堀内伊太郎氏が「浅田飴」と改称。昭和22年、(株)堀内伊太郎商店設立。平成6年、(株)浅田飴に社名変更。

社是

信頼、創造、発展

社章

社名の頭文字Aと、飴の形（碁石）でデザインしたもの。

◆ ◆
わが国でも有数の老舗で、鎮咳去痰薬およびダイエット甘味料のトップメーカーとして名高い。心身健美を理念に、企画開発型の企業をめざしている。



代表取締役社長
堀内恵美子
昭和4年生まれ
十文字高等学校
卒業

教の事件等、世の中暗い事件が多かったが、その中でも野茂やイチローの活躍等が明るい気分にさせてくれました。

こういう中で、昨年の薬業界は夏物の一部活況はありましたが、全般的には日本経済同様足踏み状態が続いている現状です。

我々の一般用医薬品を見ましても、平成2年度の8,176億円を100とした場合、平成5年度は8,158億円(99.8%)、平成6年度は8,087億円(98.9%)と落ち込んでおり、平成7年度も回復は無理とみられております。

このような状況下で全家協流通委員会・第38回流通懇談会が、平成7年10月20日、薬業健保会館会議室で、流通担当者が集まり、当面の薬業界における諸問題につき種々協議を行いました。

規制緩和によるコンビニエンスによる販売やそれらに関して、全商連・日薬・薬種商の三団体による医薬品流通の規制緩和に対する10月12日の総決起大会などの状況につき説明がありました。

その他、北海道流懇のあり方や互礼会について協議し、無事終了しました。

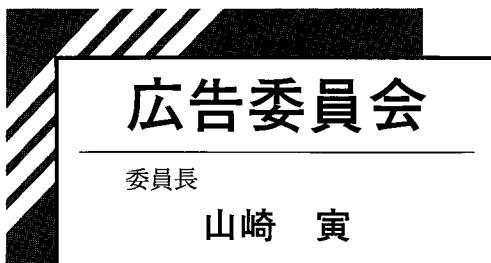
薬業経済は本年に控えた薬価の見直し等、医療用医薬品に対する政府の医療費抑制がか

なり厳しいものとなる見通しであります。

このような状況を踏まえ、流通委員会としては大衆薬によるセルフメディケーションをさらに進め、業界の発展に努力していきたいと念願いたしております。

幸い円相場の安定や個人消費の上昇、設備投資の復調気配等により、平成8年度は日本経済の先行きに、若干の光明が見えてきました。今年こそ一般薬市場の回復をめざし、頑張りたいと思いますので、よろしくご指導のほどをお願いいたします。

(株式会社トクホン 専務)



■アレルギー体質の方…の表示が追加

いよいよカゼ薬の広告が始まろうとした矢先に、降って湧いたように、漢方製剤を除くカゼ薬等と解熱鎮痛剤の「使用上の注意」に記載事項が追加されました。

会員会社訪問

無臭元工業株式会社

東京都足立区江北2-8-6

沿革

昭和35年(1960)、田崎孝氏が微生物利用の脱臭剤の製造販売を中心として、現在地(足立区江北)で創業。50年、栃木県小山市に小山工場竣工。53年、本社新社屋完成。平成5年、小山工場増設。

モットー

社員の幸せと社会への貢献

微生物を応用した脱臭剤をはじめ、汚水の浄化・水質の安定製剤を次々に開発。公害防止、環境衛生薬剤の分野でユニークな存在として注目されている。近年は“住みよい環境づくりと美しい自然を守る”を理念に、家庭用から広域環境づくりまで、幅広く事業を展開している。



代表取締役社長
田崎孝
昭和2年生まれ
東京理科大学
理化学科卒業

今までの「この医薬品の使用上の注意をよく読んでお使い下さい」に加えて、「特にアレルギー体質の方は服用前に医師や薬剤師等にご相談下さい」を表示しなければならなくなつたのです。これは昨年11月15日以降に出す広告に関してということでした。

テレビの場合は画面いっぱいに静止画像で2秒間、「アレルギー体質の方」は赤で表現するということです。それまでテレビ広告の「使用上の注意」は1秒間でよかつたわけですから、改定作業は各メーカーとも大変なことでした。

すでにCM制作を終わっている所が多く、時期的にも不運でした。どうしても改定が間に合わないというメーカーに対しては、テロップで10秒間ほど流すという応急的な措置がとされました。

それにしても、15秒スポットにこれを盛り込むことは大変なことです。とは言ってもPL法も発足したことですし、これを守らないわけにはいきません。

■日薬連、大衆薬協共催で研修会

日薬連、大衆薬協共催の研修会が、10月13日に厚生省や都庁の担当の方をお迎えして行

われました。製薬関係者はもちろんのこと、広告代理店や制作代理店、媒体の方達にも集まつていただき、趣旨の徹底を図りました。

このことにより、11月15日を待たずに改定をしたメーカーも多く、かなり徹底はしたようです。

カゼ薬、解熱鎮痛剤以外に飛び火する心配は今の所なさそうですが、これからも薬の有効性はもちろんのこと、安全性にも細心の注意を払いたいものです。

幸いなことに家庭薬は伝統も古く、安全性が実証されているわけですから、その心配はあまりないように思われます。

(株式会社金冠堂 社長)

労務委員会

委員長

長門 泰孝

このところの日本経済は、円高のは正、株価の上昇、一部業界における業績回復などの景気好転の兆しがみられるものの、まだまだ先行き不透明感があり、各企業とも慎重な対

会員会社訪問



森田製薬株式会社

東京都練馬区石神井町1-7-26

沿革

大正5年(1916)、森田米治氏が新富町で合資会社森田製薬所を設立。戦時中、巣鴨に移転。統制会社を経て、戦後、現在地に移り、森田製薬(株)としてスタート。

社章

ギリシャ神話の音楽・医術・弓術・予言の神であり、光明の神であるアポロ

ンを図案化したもの。

◆ ◆
80年の歴史を持つ老舗であり、戦前の代表的な鎮痛薬「回効散」のメーカーとして知られる。戦時中は軍より指名された軍薬として国内のみならず、国外へも広く供された。効能には定評があり、安心して服用できる家庭薬として根強い人気がある。



代表取締役社長
森田重太郎
明治44年生まれ
東京薬学専門学校卒業

応を強いられている。

そのような経済情勢の中、昨年度夏季賞与は労働省の調査によると、平成4年度夏季以来3年振りにプラス0.4%の伸びとなつたが、これは本年の賃上げ率が2.79%という史上最低水準に低迷したため、一部の企業が年間の賃金水準の調整を、賞与で行う意図が含まれていたという見方もできる。

また、株価上昇を前提とするベースアップを廃止する企業もあり、多くの企業が春闇方式に対する考え方を抜本的に見直す必要に迫られている。

さらに、雇用調整も継続的に進行しており、依然として雇用情勢を取り巻く環境は厳しい状況であり、各企業とも状況変化に迅速に対応するべく、苦慮しているのが現状だと言えよう。

このような状況下において、労務委員会では、秋山錠剤、河合製薬、浅田飴、わかもと製薬、イチジク製薬、救心製薬、養命酒製造、太田胃散、トクホン、龍角散、原沢製薬、東京甲子社、金冠堂、ツムラの14社が定例会議を開催して労使関係の諸問題について検討してきた。

9月の定例会議は、ツムラの軽井沢山荘に



て、各社の労働時間・休日・休暇・勤務形態等を議題に情報交換を行った。

内容については、労働基準法等の法律上の規制があるため、各社とも大きな差異はないが、ここ数年来「労働時間の短縮」「年次有給休暇の付与の変更」「育児休業制度の導入」「介護休業制度の導入」等の法律改正が相次いだこともあり、各社とも大変活発な情報交換がなされ、関心の高さが改めて認識された会議であった。

12月の定例会議では、冬季賞与交渉の経過についての情報交換を行った。

各社とも、今後の雇用情勢の変化には強い関心があり、今年の春闇、今後の労働情勢の動向等について、委員会でお互いに情報や意見を交換して、問題解決の参考となるよう期待するところである。

(株式会社ツムラ 取締役人事部長)

会員会社訪問

株式会社守田治兵衛商店

東京都台東区上野2-12-11



沿革

延宝8年(1680)、初代守田治兵衛氏が摂津から江戸へ出て薬業を開業。文久2年「宝丹」の発売を開始。戦時中の統制会社・大興製薬を経て、昭和34年株守田治兵衛商店に。

社章

房の中に宝丹の文字を図案化したもので、登録商標として用いている。

◆ ◆ ◆
東京で最も古い薬舗のひとつとしてつとに名高い。製造とともに小売店も営んでいる。現在、胃腸薬の「宝丹」、風邪薬の「守妙」、たん・せき、ぜんそく薬の「立効丸」の三種類を生産。300余年の伝統に支えられ、口コミでの注文も多く、いくたの人々に慕われている。



代表取締役社長
守田敬太郎
大正4年生まれ
東京大学
工学部卒業

厚生委員会

委員長

石原 道郎

昨年10月24日、GMP委員会との共同で第6回GMP研修会として武田薬品工業株式会社湘南工場の見学会を実施しました。

当日は、午前11時に新宿駅西口に集合し、貸切バスにて、近代化された首都高速湾岸道路周辺の風景を眺めながら、午後1時30分に目的地である武田薬品湘南工場に到着。はじめに工場の概況をビデオにて鑑賞後、約75,000坪の敷地に点在する主な製剤棟を見学しました。

特に最近完成したアリナミンAの原料の秤量から造粒、混合・製錠、糖衣、選別、最後の検査印刷工程までを、コンピューターにて高度に自動化されている様子には、全員感嘆するだけでした。

見学を終えたのち、GMPに関する質疑応答などを行い、有意義に研修会を終了しました。

引き続いだりで奥湯河原の“山翠樓”に移り、参加者全員による懇談会を開催、楽しい歓談の時を過ごしました。

本年も春に懇親旅行、秋にはGMP研修会旅行を実施する方針でありますので、何卒ご希望などご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

(石原薬品工業株式会社 社長)

広報委員会

委員長

友田 真二

編集会議の中食後の雑談中に、事務局の野原さんが、組合の建物が老朽化して外壁が落ちたり、エレベーターが故障したり、トイレが水漏れしたりで、大変ですとの苦労話から、当組合事務所ビル購入の時期、新川の焼けビル事務所時代の話等、飛び出しました。

この組合の戦後新発足が昭和22年とすると、もうすぐ50年、これは記録としても残す価値があるとの話になり、急遽、当時の理事長、津村重舎様と歌橋一典理事がご健在でおられるので、座談会をやりたいとの企画が具現化して、今号に収載されることになりました。

その過程で「かていやく」第3号、5号、6号に歴代理事長のご抱負、組合建物移転、獲得の事情の一部、新委員会制度のメンバー表、活動の一端等が記録として活字化されており、広報誌の貴重さを再認識した次第です。

当時に較べて今の時代の流れはさらに激しさを増しております。年2回の発行では十分な記録は残せないかもしれません。しかし、活字に残す重要性も皆様とともに考えながら今後とも少しでもお役に立てるよう努力したいと、委員一同覚悟を新たにした次第であります。なにとぞ、皆様のご協力とご支援をお願い申し上げます。

(三共エール薬品株式会社 顧問)



くすりにも心があります…。

慈雲堂薬局(東京都小金井市本町)佐藤 弘先生



■個性的な商品が多い家庭薬

漢方と調剤と家庭薬を三つの柱に、相談販売を基本にしています。お客さまに対しては病人と思って接し、思いやりと真心を込めて接するように心がけています。

家庭薬というと、マスコミ品という印象が強いのですけど、実に個性のある商品がたくさんありますね。養命酒しかり、実母散しかり、中将湯、救心、イチジク浣腸、松寿仙など、いろいろです。

でも、いくら個性的な商品だからといって、お客さまに言われたものを、「ハイ、ありがとうございます」と、ただ渡すだけでは、薬剤師の仕事とはいえませんし、そのような姿勢では、やがて、価格競争に巻き込まれ、値段で勝負せざるをえなくなります。

医薬品は定価で販売してこそ医薬品だと思うのですが、お客様の身になり、しっかり相談すれば、他店と同じ商品でも値引きしなくても定価で販売できるようになります。

■商品の良さを知る

商品にはどの商品にも特性があり、良さがありますから、まず、その良さを知り、セールスポイントは何かを知る。次に、どのように応用できるかを研究し、患者さんの体質に合った使い方を説明するようにしています。

例えば浣腸の場合、冷たいまま挿すよりも体温と同じくらいに温めて挿すように、と言付け加え、トクホンなどのハップ剤のお客様には、最も効果的な貼る場所を教えます。ツボを勉強すればいいですから、そんなに難しいことではありません。かぶれやすいという人には、寝る前には貼らないようにアドバイスします。

このように、ちょっとしたことを説明するだけで、患者さんには「よく効きました」と喜ばれ、同じ商品でも、より個性的な商品になります。

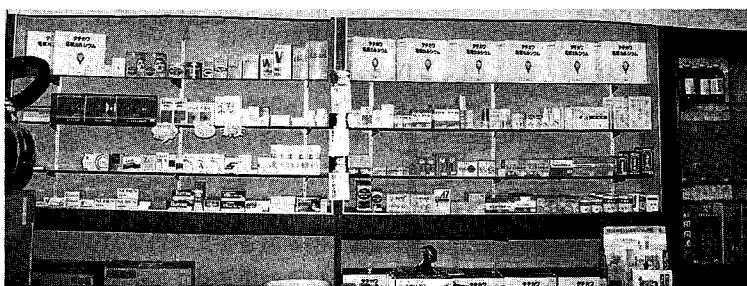
■くすりが喜ぶ使い方をアドバイス

家庭薬には長い歴史を持ち、いたたの人々に親しまれてきた商品が数多くありますね。魅力があるからこそ続き、価値があるのではないでしょうか。“くすりにも心がある”これは私の持論なんですけど、ことに家庭薬には温かい心があります。くすりも使い方次第で喜ぶんですね。くすりの良さを引出し、くすりが喜ぶような使い方をアドバイスするのが私たちのつとめだと思います。

確かに、家庭薬には個性的な商品が揃っています。しかし、商品の宣伝だけで、商品の持つ良さを言っていない気がします。家庭薬のメーカーが一体となって商品の啓蒙をしていただけたらと思います。

●佐藤 弘先生

1946年(昭和21年)1月、三重県生まれ。星薬科大学卒業。
昭和49年、株セントラルドラッグ設立。昭和50年、慈雲堂薬局開局。小金井市薬剤師会会长を歴任。
小金井市本町6-5-3



▲家庭薬コーナー

第53回家庭薬軟式野球大会

(株)大木が二年連続優勝、準優勝は救心製薬(株)

■緊迫した熱戦を展開

平成7年10月29日より明治神宮外苑軟式野球グランドにおいて、組合恒例の野球大会が23チーム参加のもと熱戦を展開し、11月19日に最終日を迎え、無事全日程を終了いたしました。

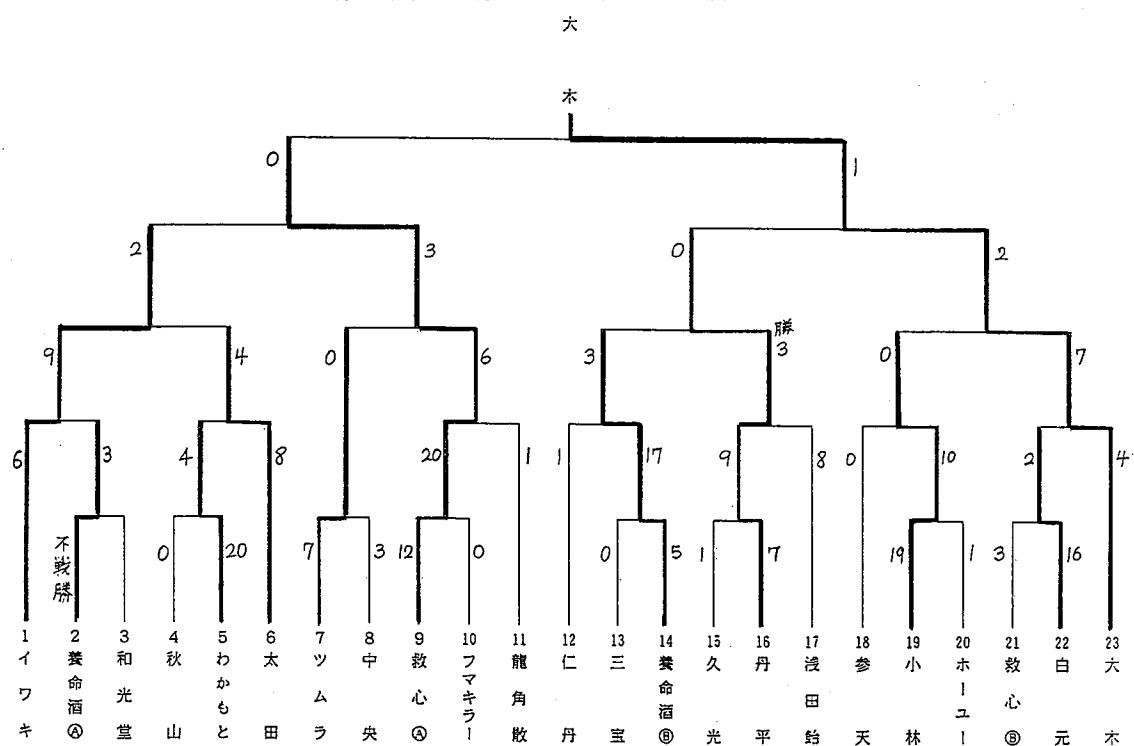
本年は幸い天候にも恵まれ、各試合とも好

ゲームが繰り広げられました。決勝戦は両チームの好守、好投により、手に汗を握る攻防の結果、1対0で(株)大木チームが、昨年に引き続き優勝を果たしました。

出場された選手の皆様には大変ご苦労さまでした。来年のご参加及び健闘を祈念しております。



第53回家庭薬軟式野球大会成績表



家庭薬グラフティー

■薬祖神祭



(10月17日、東京薬事協会で)



津村重舎最高顧問
の玉串奉奠

■薬業四団体受賞者祝賀会



厚生大臣賞を受賞
された(株)金冠堂専
務の市川一雄氏



都知事賞を受賞さ
れた(株)トクホン社
長の鈴木規允氏



都知事賞を受賞さ
れた第一薬品産業
(株)社長の深澤修氏



(11月30日、東京プリンスホテルで)

■GMP研修旅行



平成7年薬事功労者受賞祝賀会で
記念品を贈られる塩澤理事長
(12月14日、組合会議室で)

(10月24日、武田薬品工業(株)湘南工場で)

■薬業四団体新年賀詞交歓会



鏡開きをされる塩澤護理事長(右)
(1月9日、赤坂プリンスホテルで)

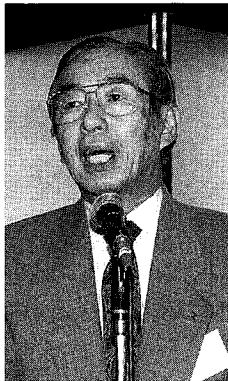


ご挨拶される長野
厚生政務次官



A
ご挨拶される石井道子
参議院議員

■全国家庭薬合同新年互礼会



ご挨拶される山田安邦
全国家庭薬協議会会长



乾杯の音頭をとられる
塩澤護理事長



中じめをされる荒川長太郎
愛知県医薬品工業協会会长



(1月9日、赤坂プリンスホテルで)

編集後記

▶年頭のご挨拶に、「心を込めて造った製品と市場を守ろう」との主旨の塩澤理事長のご挨拶をいただきました。表紙の絵は恒例の堀泰助さんから今年の干支である「ねずみ」を頂戴いたしました。子の年は景気がよくなるといわれています。株式市場も上昇気運にあり、今年は樂しみな年になりそうです。中心の読み物は座談会で、編集委員も家庭薬組合の歴

史の重みを噛みしめた次第です。

▶笑うことで免疫力が高まる。「笑薬」こそ何よりの健康法と松井さんの提案です。慈雲堂の佐藤先生の「くすりにも心がある。家庭薬の個性を生かせ」とのご激励を体して、本年も大いに楽しく、ほがらかに、笑いを失わぬ力を合わせて業界発展に頑張りましょう。

(三共エール薬品 友田)

事務局だより

- 9月7日 第53回家庭薬軟式野球大会の準備打合せのため、松島・ホテル一の坊において、野球同好会幹事会を開催した。
- 10月4日 10月29日より始まる家庭薬軟式野球大会の開催に先立ち、試合組み合わせ及び規約等を審議するため、組合会議室で参加23チームの主将会議を行った。
- 10月20日 東京薬業健保会館において、全家協流通委員会並びに家庭薬流通懇談会が開催された。
- 10月20日 平成7年度の薬事功労者厚生大臣表彰を受賞された(株)金冠堂の市川一雄氏には、この日厚生省における贈呈式に出席された。
- 10月23日 平成7年度の薬事関係功労者都知事賞を受賞された(株)トクホン社長鈴木規允氏、第一薬品産業(株)社長の深澤修氏には、この日都庁における贈呈式に出席された。
- 10月24日 第6回GMP研修見学会が武田薬品工業株式会社湘南工場において、組合員多数参加のもとで開催された。同夜は奥湯河原温泉山翠樓に宿泊し、懇親を深めた。
- 11月13日 当組合最高顧問津村重舎氏の米寿を祝う会が、東京会館・ロイヤルルームで盛大に開催され、関係者多数が出席した。
- 11月14日 当組合広告委員会によるエーザイ株式会社川島工園及びくすり博物館の見学会が開催され、同夜は名鉄犬山ホテル・白帝閣に宿泊した。
- 11月30日 薬業四団体共催による平成7年度薬事功労受賞者祝賀会が、東京プリンスホテル・プロビデンスホールで盛大に行わ

れた。

- 12月14日 当組合の薬事功労受賞者祝賀会並びに忘年会が組合会議室において行われた。塩澤理事長より記念品が市川、鈴木、深澤の各氏に贈呈され、お祝いの乾杯が太田昭氏より捧げられた。

平成8年

- 1月9日 正午より薬業四団体共催による新年賀詞交歓会が赤坂プリンスホテル・クリスタルパレスにおいて行われた。
- 1月9日 午後2時より全国家庭薬メーカー・卸合同新年互礼会が赤坂プリンスホテル・グリーンホールにおいて行われた。

計 報

ご冥福をお祈りいたします。

◆横手一二様

株式会社和漢薬研究所代表取締役会長横手一二様には、平成7年8月19日にご逝去され、9月16日、群馬県渋川市の真光寺で、カボニー産業(株)、(株)和漢薬研究所の合同社葬がしめやかに執り行われました。

◆津村重孝様

株式会社ツムラ元副社長、全国家庭薬協議会前会長の津村重孝様には、平成7年8月29日ご逝去され、9月27日、青山葬儀所で(株)ツムラの社葬がしめやかに執り行われました。



かていやく

通巻58号 1996年1月20日

編集人：かていやく広報委員会

発行所：東京都家庭薬工業協同組合

〒104東京都中央区銀座8-18-16

電話 03-3543-1786 FAX 03-3546-2792

